

令和7年度（2025年度）A級公認審判員の目標



全日本大会の審判員を担当することができるのはA級,B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、リーグHおよび日本選手権へのノミネートを目指し、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 「審判員の心得10箇条」を熟知し、人間性を発揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、適切な判断基準を元に、的確な判定を下し、TOやオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。
- ④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会審判本部作成の「レフェリー評価票」をもとに、A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理・運営（モダンハンドボールの理解）	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する確かな態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失っていないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミュニケーション	姿勢は正しいか。 「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディランゲージや口頭による説明がきているか（怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる）。	○レフェリーの人間性 ○丁寧な指示と運営 ○TO, オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 双方にバランスのとれた判定に心がけているか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス ○判定のバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気 ○通信機器の活用
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。	○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである
(3) ゲームの観察	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3歩, 3秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) 1対1の 局面	罰則 8:4にある即座に 2分間退場への準備	各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレーの区別ができているか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当か。	○即座に2分間退場とすべきプレーを適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前30秒間の集中
	チームに基準が理解されているか	罰則の有無の判断基準が適切か。 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のボディランゲージ ○プレイヤーへの基準の伝え方
	プロボケーション・オーバーリアクション・シミュレーションの見極め	プロボケーション・オーバーリアクション・シミュレーションを見抜き、予防的な処置を含めた、適切な処置ができているか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の 違反	ボールを持ったプレイヤーの違反	攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解しているか。 違反を見逃していないか、探していないか。 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多くないか
	ボールを持たないプレイヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり追っていないか
	正しいブロック/ 不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャンス の見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスの判断基準を理解しているか。 明らかな得点チャンスでないものに7mスローを与えていないか。 GK不在の状況での明らかな得点チャンス の見極め。	○防御側プレイヤーの位置観察ができているか
	ゴールエリア侵入 と影響の見極め		○押し込まれてのエリア侵入を見極めているか
	ボールを所持していない 明らかなチャンス		○違反がなければ明らかな得点チャンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ・ダブル ドリブル・オーバー タイム・明らかな 着地シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュートした場合は、7mスローに戻しているか。	○ステップ2歩+2歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処置
	各種スローの判定 と適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレイヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理 (モダンハンドボール の理解)	パッシブプレーの 予告合図のタイミ ング	適切な判断基準のもとで予告合図のタイミングは適切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの 判定	違反を判定するタイミング、および判断基準は適切か。	○ボールを持ったプレイヤーがゴールに向かっての状況で違反の笛を吹かない
	的確なタイムアウト・ 不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければならない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・ 笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしているか。 プレイヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機応変 ○レフェリーの基本走法 ○7mスロー時の観察位置
	明確なジェスチャー・ 笛の音	判断基準を適切に説明できる明確なボディランゲージを用いているか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か(強弱、長短、軟硬の使い分け)。	○罰則、7mスロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有しているか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる